

たくさんの友人を作ることができました。アジアからの多くの留学生、寮やクラス、パーティーなどで出会ったアメリカ人の学生、そして7ヶ月間一緒に生活を共にし、親友となったイギリス人のJames。私は、誰とでも気軽に話すことができ、相手に「話していておもしろい奴」だと思ってもらえるのだと思います。アメリカで知らない人に話しかけて行くのは、そんなに難しいことはありません。しかし、初対面の人と何人顔見知りになっても、友人と呼べるようになるかは難しいと思います。幸運にも、私はいろんな悩み事を相談したり、笑いあったり、同情しあったりする幾人もの友人たちを作ることができました。国境を越えて見出した社交性。これも、私の強みの一つだと思います。

最後に、「客観性」を挙げたいと思います。私は、ある集団にいるときに、自然と「自分の役割」を演じているということに気がつきました。ディスカッショングループで、誰も言葉を発しなかったときに、進んでリーダーとなることができました。グループリサーチの時には、みんなが気付かなかったアイデアに気付くことができ、それが大きな喜びになりました。これらは、自分が必要とされていることに気付いて行動できる、ということにつながるのではないかと思います。授業だけでなく普段の生活の上でも、「集団」のことを考えて、みんなにとってよりよい方向に向かうような考えを、自然としているということに気がつきました。

しかし同時に、この「集団」を重んじる私の長所は、短所にもなりうるということに気がつきました。ルームメイトのJamesに、「Kenjiはいろんなことに対応できて、常にグループのことを考えて行動するけど、たまに『本当のKenji』がわからなくなる。」と言われたときです。私は、常に自分の役割を考えて行動するあまりに、私自身を消し去ってしまっているのだと感じました。なにか自分で考えを持って、それに向かってみんなを引っ張っていきたくらいから「リーダー」になるのではなく、「リーダー」にならなくてはならない状況だから「リーダー」になっている、という具合に。私がどのようにあればいいのか、今の私にはわかりません。しかし、この留学生活を通してこれらのことに気付けたのは、大切なことだったのではないかと思います。

## 留学、その後

日本人の留学生の友達には、「まだ帰りたくない」と口をそろえて言っています。私も、あと2ヶ月で帰らなければならないのは残念で仕方ありませんし、まだまだ自分を磨いていけると思っています。しかし、私はもうネガティブに考えていません。日本に帰国した後も、やりたいことがたくさん残っているからです。



JazzギタリストのDiane Schuurと

早稲田大学の留学していない友達たちは、みんな就職活動を続々と終えて、私に報告をしてきてくれています。最も仲のよかった友達が、第一志望の商社に内定をもらったと聞いたときは、パソコンの前で泣いてしまいました。そして、次は自分の番だ、と気持ちを入れなおしました。帰国後は長い期間の休みが取れることもあり、いま段々とインターンの申し込みを始めています。私が所属しているNGO活動の一環で、アジアの国の一つにボランティアに行くことも決まっています。就職活動のためのキャリアアップという大それた目的よりも、逆に就活前に自分がやりたいことを思いっきりやってみよう、という発想です。留学のその後も、休む暇はないようです。

将来の自分の姿を考えたとき、もちろん不安になる部分もたくさんあります。でも、それはたまたま楽しくない空想でもあります。母校の教壇に立って、英語を教えている自分。こげ茶色に限りなく広がるアフリカの大地で、植林をしている自分。ボーダレス世界の中でゴマンと増えていくであろう海外子女のために、カウンセリングをしている自分……。これは松本先生の姿ですが、どんな自分の姿を想像しても、わくわくしてきて胸が踊るような気がします。

さて、これから先、まだまだチャレンジしていきますよ！

### 清沢 健二 (きよさわ けんじ)

早稲田大学教育学部3年  
昨年9月から1年間、オレゴン州 Oregon University に留学中。



清沢君、前回の疲れ気味の状態から復活したようです。留学を通して、体験だけではなく、自分の姿にも目を向けています。さらに、留学後の抱負まで。

興味のあるのは、友人学園でのインターンです。彼が大学で学んでいる言語習得のスキルを使って、児童の日本語指導をしているとのこと。彼の目から見た、海外の子ども達の日本語習得の実態や問題点、指導方法など、海外で子育てをしている保護者へのアドバイスを聞いてみたいものです。その機会を作りましょう。